

■(株)スカイ 本社・豊岡本社工場
静岡県磐田市上野部2740-5
TEL (0539)63-5500
FAX (0539)63-5633

■関東営業所
神奈川県相模原市南区大野台3-25-17
TEL (042)704-6211
FAX (042)704-6212

2019年7月20日発行

□URL : <https://www.sky-precut.jp/>



新社長挨拶

代表取締役社長 金澤 和孝

この度、2019年6月、代表取締役社長に就任致しました金澤和孝です。ここに謹んでご挨拶申し上げます。

したが、まだまだひよつ子です。諸先輩方からの叱咤激励を頂きつつ、精進して参りますので宜しくお願い申し上げます。

また、建設業界内における労働力のあり方も、大きく変化してきております。首都圏を中心に、様々な国籍の方が、職人として作業する姿も珍しくなくなりました。

スカイ」の存在意義であると考えております。弊社で提供させて頂く商品は、一部分を除き、完成した建物からは、なかなか目にすることが出来ません。

弊社は平成2年創業以来、30年目を迎えました。これもひとえに多くのお客様のご愛顧、ご支援を賜ったからこそと、心より感謝申し上げます。

現在建設業界では、賃貸アパート大手であるレオパレスの施工不良問題を発端にして、これが他大手にも飛び火しています。

ならぬと推測される中、誰が施工しても、均一かつ精度の高い建築物となる商品が強く求められてきます。

暮らしの「骨格」を担う立場として、創り手住まい手の方にとって、妥協することのない良質な商品を提供し続けていく事が、社会に貢献する我々の使命だと思っています。

この30周年目という大きな節目に大役を務めさせて頂く事にあたり、重い責任を感じると共に、身の引き締まる思いです。

そこには様々な問題点があるのですが、現状デフレ下での価格競争や、純粋な人手不足からなる「現場管理者不足」「職人の手抜き」といった、現場末端でありがちな問題点が注視されているのだと思います。

工場の中心を担う技能労働者が減少し続ける中、我々プレカット工場が出来る事は何かを常に模索し、具体的な商品として形にしていける事が必要です。

引き続き皆様の変わらぬご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

職責を全うすべく、日々、努力する所存でございます。

私は2001年に株式会社スカイに入社し、本年で入社19年目となります。この間、プレカット

「責任施工」という魔法の言葉の下、下請けに丸投げ依存体質の是非を問う時代が来るのでしょうか？ 少なくとも現状より安心して丸投げできる施工体制を、どの様に構築していくかが検討されなければ

創業から30年という年月で培った実績と信頼を損なう事無く、今後も皆様方に対し、より「安心」「安全」で「付加価値の高い商品」を提供する事が「株式会社

の1助となるべく、全社一丸となつて取り組んで参ります。



レカットの営業職を中心に様々な経験をさせて頂きま

す。

す。

す。

南海トラフ巨大地震に備えて

今後30年以内に、70〜80%の確率で発生すると言われていたのが、「南海トラフ巨大地震」です。

この大地震では、茨城県から沖縄県まで、全長2000km以上の範囲が被害を受けると推測されており、最悪の場合、

死者が32万人以上に達すると
言われています。

内閣府の「南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループ」によると、南海トラフ巨大地震を「国難」としたうえで、「国民の半分が被災者になる」とまで想定しています。

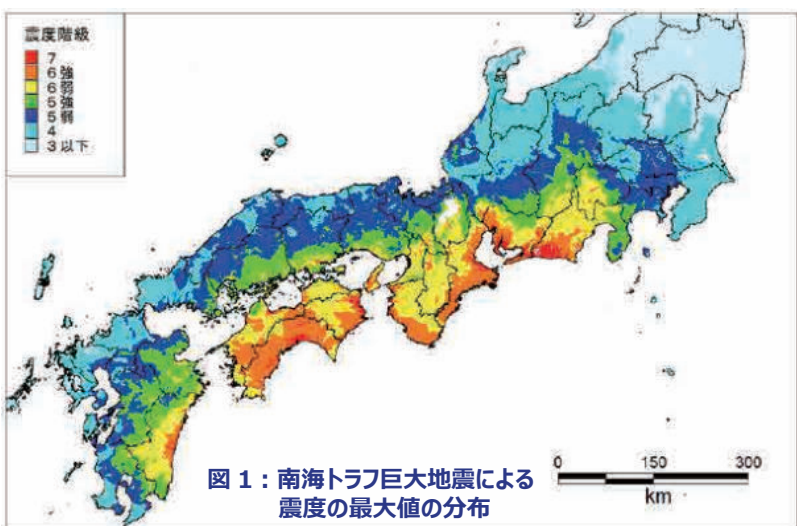


図1：南海トラフ巨大地震による震度の最大値の分布

南海トラフ巨大地震は、大津波を伴うのが特徴です。最大クラスの地震が起きた場合、静岡県から宮崎県にかけての一部地域では震度7となります。関東から九州にかけての太平洋沿岸の広い地域では、10mを超える大津波が襲うことも想定されています。

この巨大地震は、過去には100年〜150年といった周期で発生しています。

1944年の昭和東

南海地震や、1946年の昭和南海地震が発生してから、これまで70年以上が経過しています。今後30年以内に発生する確率は70〜80%と、切迫性が高まってきました。

この様な国難に備える為、私達には何が出来たのかを考えます。

耐久性を高める

現在の建築基準法における耐震性能の目標は、「大地震には、建物の倒壊を防いで命を守る」事となっています。

これはつまり「なんとか命は助かるけれど建物のダメージが酷く、その後はとても住める状態ではなくなる」可能性があるという事です。いわゆる耐震等級1という現代建築においては最低の基準だと認識する必要があります。かつて住宅の性能が著しく低かった時代に「せめて命は守りたい」

という事で定められたものにすぎない、と理解したほうが良いでしょう。

建築基準法は昭和25年に制定され、今日に至っておりますが、制定当時の住宅と比較し、現在の住宅の耐震性能は、その頃よりも格段に向上しています。

現在では、地震後でも「補修は必要だけれども、大地震後も住み続けられる住宅」へと、求められている住宅性能は大きく向上しています。

現在の性能表示では、建築基準法の1.5倍相当の耐震等級3が最高等級となっております。

しかし、これからの住宅は、耐震等級3は最低の性能と考えるようになってくるのが自然ではないでしょうか。

既に国内の主要な住宅メーカーにおいては標準仕様となりつつあります。

今後はより上位の等級も確立されていく可能性もあります。

何より「耐震等級3以上を目指す為の構造」の考え方が、より強固な住宅造りには欠かせない要素である事は確かです。

耐震性能を高める方法は様々ありますが、弊社で多く提供させて頂いている事例を簡単に紹介致します。

①バランスよく壁量を高める

近年、壁量を高める事に関しては、あまり難しい事ではなくなりました。

昨年の3月に告示が改正され、現状の構造用合板等による耐力壁の釘打ち間隔を小さくする事により、壁量を高める事が可能となりました。

また、内装下地の石膏ボードも、性能表示の準耐力壁として認定を取得した釘・ビスを使用し、その間隔を小さくする事により、さらに壁量を高める事が可能です。

これらを利用すれば外周の無開口壁は筋違を使用する事なく、実質的に5.0倍以上の耐力壁を設ける事が可能となっています。

この様に、特別な建材等はほとんど必要が無く、コスト面で無理が生じる事はありません。

その際に建物全体の耐力を上げる事を忘れてはいけません。

ただひたすらに壁量を高めたからといって、開口部だらけで全体のバランスが悪い、余力が少ない建物になってしまったら元も子ありません。

建物全体の偏心率を十分に考慮し、バランスの良い耐震要素の配置を心掛ける必要があります。許容応力度計算とまではいかなくとも、まずは令46条（建築基準法）に即した壁量計算からご検討されてはいかがでしょうか。

次の段階として、品確法に即したへ耐震等級3以上をを検討して頂けたらと思います。

②耐震に制震をプラス

制震とは建物に組み込んだ制震装置により地震のエネルギーを吸収し、揺れを抑制する事です。連続する大余震にも繰り返し効果を発揮するという魅力を持ちながら、比較的安価な事や施工性の高さから、年を追うごとに制震装置の引き合いが増えてきています。

最近では壁量の要素を備えつつ、制震性能をもった商品も販売されています。

適切な壁量配置後にも、どこに装置を付けようかと頭を悩ます必要が無く、制震性能を付加する事が出来る為、お施主様に対しても、より気軽にご提案頂けます。

また、制震装置がどの程度の効果があるか、低減効果の算定を行う事も出来ます。

こうした制震についても、適切な装置の配置に関するご提案をはじめとして様々な対応をしておりますので、お気軽にご相談下さい。

この様に、弊社では主要構造部を取り扱う必要上、構造に関する様々な取り組みを行っています。

「構造計算」をはじめ、「壁量計算等を基にした偏心率の高い構造材提案」、「構造強化に繋がる補助的な建材の提案」等を通じて、皆様方により耐震性能を高める住宅造りに参加させて頂きます。こうした事が、来るべき大災害という困難に対して、備えとなる活動であると感じております。

今後とも宜しくお願い致します。

代表取締役社長 金澤 和孝

JAS構造材利用拡大事業について

昨年度から始まった、林野庁の制度「JAS構造材利用拡大事業」が、本年度も継続されることになりました。今後、利用拡大が予想されるCLTは、助成金を利用する事で取り組みやすい状況となっております。

休憩所等の小物件を計画されてはいかがでしょうか。

■JAS 構造材利用拡大事業 (CLT)

< 指定部位 >

構造部分の一部に CLT が使用されていること

< 助成対象部位 >

全ての部位に使用された CLT

(昨年度の説明会では、構造利用部分であったが、実際は雑壁（非構造）部分も補助対象となっていた)

※合法伐採木材であることが証明できること

< 助成額算出式 >

次の①②③のうち最も低い額

- ①使用予定の材積量 使用予定の材積量（住宅部分を除く）に立米単価を乗じた額
- ②使用実績の材積量 使用した材積量（住宅部分を除く）に立米単価を乗じた額
- ③実際の調達費 CLTの調達費（材料費、加工費、運搬費）
立米単価 140,000 円/立米

■その他林産物 JAS の支援、助成の上限額

< 助成部位 > 「JAS 構造材への支援」以外の全ての「林産物 JAS」

※合法伐採木材であることが証明できること

< 助成材積 > CLT の材積量と同材積を上限

< 助成額算出式 > 「JAS 構造材への支援」以外の「林産物 JAS」の調達費の 1/2

< 助成の上限額 > 延床面積が 1000 m²未満かつ木材部分の階数が 4 未満 →1500 万円/件
延床面積が 1000 m²以上又は木材部分の階数が 4 以上 →3000 万円/件

※ 1 事業に対しての助成額です。CLT+ その他林産物を合計した助成金額となります。



「真庭バス停」

延べ面積：8.12 m²

4カ所のCLT壁を設け、その上に屋根CLTパネルを載せている。接合方法はLSB接合を採用。

CLT利用例



「CLT長浜車庫バス停待合所」

延べ面積：9.92 m²

四隅にCLT壁を設け、その上に屋根CLTパネルを載せている。接合方法はGIR接合を採用。

年寄りには辛いよ．．．？！

高齢者の自動車運転事故が、連日の報道を賑わしている中、年金生活の危うさを報じる状況も出態して来て、メディアは総老齢化問題の花盛りとなつたようだ。

一方、国際政治の世界では、私より高齢の米大統領が、ある種のいかがわしさと偏狭単純さで、それなりの支持を集めている。それに同調する様々な疑惑を持つ階層やグループが、それ以上の偏狭さで自分達の主張を実現しようとしているように見える。

それはさて置くとして、運転と年金の問題は身近な案件なので、常日頃から思っている事を、ここで整理してみたい。

社会生活上、老齢であろうが無かるうが、運転は暮らしの必須要件となっている。一部都会の住人にとっては、車を持たなくとも問題無かるうが、大多数の人々にとっては死活問題と言つて良い。

そもそも、そうなる様に国づくりの政策自体を進めて来たのである。住宅政策を含めて、

道路・教育・医療行政等々、バラバラ感が強く、一人一人が自発的に且つ独立して移動手段を持たない限り、効率的な生活を維持出来ないようになってしまった。

しかし、身体の運動機能は年齢とともに衰弱していき、事故確率を高めてしまう。

私は、自分の問題として、次の車輛はマニュアル型のクラッチ制御式にしたいと思つている。両手両脚を同時に駆使しないと坂道発進が出来ないことになる。

結論として何が言いたいかと言えば、このマニュアル型自動車を運転出来ないような身体機能になったら、免許証を処分しようと思つている。

さて、年金については、そもそも制度の根幹からして、私には腹が立つものなのだが、「貰う、貰わない」などという表現自体が卑屈である。税では無く、年金保険という詐称を使い乍ら、義務を課し恩恵を施すかの如き「貰う」字句は、権利者たる国民を愚弄している。

一酔三幸寮主

だから私は、「取る」「受給」という言葉にこだわっている。実は「受給」も面白くないのだが・・・

さて、老後は何年を平均にすれば良いのだろうか？多分10年間を目安にしたら良からうか、と思う。逆算して75歳〜80歳までは、何らかの社会生産活動への参加が必要だろう。完全にリタイアした後の10年は、社会（国）が面倒を見るという、まさに理想的社会となる。

実は私は、50歳で仕事をやめると広言していた。それからもう20年以上が過ぎた。

これはプライベートと仕事が、どうも分離出来ない私の精神構造に原因があるようだ。だからいつまで経つても仕事をしていこうという観念が無く、ただ好きな事をしていられるだけの自分が、ここに居るだけのことらしい。

こういう私に振り廻された周囲の人達が居るとしたら、まことに申し訳ない。とお詫び申し上げる。

こだわり 「職人」紹介

「ご好評いただいた？こだわり職人コーナーも、今号で最後となりました。孤高の最終アンカー「関東配送課 課長「竹内昇平」を紹介いたします。」

●担当業務は何ですか？

橋本デポで、構内管理と配車業務を行っています。

●最近、苦労したことは？

「時間通りに！積み忘れせず！安全に納品する！」当たり前のことですが、毎日ヒヤヒヤものです(笑)

実際には渋滞等で、段取り通りに行かないこともあり、翌朝納品分の荷積みが終わった夕方位にやっと一息つける…そんな毎日です。

ただ、男所帯の関東配送課は、おじさん達が団結し、積極的に情報共有をしてくれたり、ベテランドライバーから若手ドライバーへのアドバイスを行なってくれていて、皆に助けられています。また、自社便以外の業者様のご協力も多々あり、恵まれた環境で仕事が出来ています。

●仕事上のこだわりと、今後の目標を教えてください。

無事故・無違反を継続することです。その為には、営業と連携をとり、現場状況を把握し、更に今までの経験から、ドライバーが安全な作業を行えるように段取りをすることが自分の役割

だと思つています。万が一、現場で何かあったとしても、「予想外だった」なんて言い訳したくないですからね。病気も事故も予防が大切です。

会社としても、昨年一般貨物自動車運送事業を取得したので、運行管理者として責任感を持つて、更に気を引き締めていきたいと思つています。

そしてまだまだ先の話ですが、自社製品以外の仕事も受けられるようになりたいと思つています。プレカット搬入は難しく、業者は年々減ってきています。協力業者の方たちと一緒に物流業界を盛り上げていきます！

●自分にとってプライベートを思うきっかけは？

「あえて言うなら、嫌なことがあつても、ビールで晩酌して十分な睡眠をとつて、朝目が覚めると、すっきりリセット出来るというところかな。人生前向きが一番です。」

●プライベートの楽しみは？

小学校5年生の息子が、少年野球をしており、最近やつと試合に出られるようになりました。毎週末に家族で応援に行くことが楽しみです！行くたびに成長が感じられます！

編集後記

スカイのホームページをリニューアルしました。遅ればせながら、スマホやタブレットでも見易い構成となっておりますので是非ご覧ください。

<https://www.sky-precut.jp/>